

九州大学医学部熱帯医学研究会

第46期 活動企画書

2011

**Academic Society of Tropical Medicine**

**Kyushu University**

## 目次

---

---

### 会長あいさつ

中西 洋一 九州大学大学院医学研究院  
臨床医学部門内科学呼吸器内科分野 教授

### 総務挨拶

中西 亨 九州大学医学部医学科 4 年

### 【国内研修班】

星野住民健診班  
仙台班

### 【海外研修班】

メディカルツーリズム班  
リトアニア班

### 第 4 6 期予算

---

---

# 会長あいさつ

人間は社会的生物である。健康な人間は社会との関わりなしに生きて行くことはできない。しかし、他人との関わりの中ではしばしば軋轢が生じる。社会的生物であるが故に、この軋轢によって人はおおいに傷つく。現代日本に生きる多くの人にとって「最大の悩みは何か？」との問いかけに対して、多くの人が健康問題でも経済問題でもなく、「人間関係」と答えている点に如実に表れている。この軋轢を回避するために人はルールを作る。憲法、法律、協定、礼儀作法などがこれにあたる。つまり、あらかじめ人間関係を円滑にするための原理原則を定めて、衝突を回避するというものである。

あの人は原理原則に忠実な人であるという表現は、私利私欲に走らず公正な人という印象を与える。論争や係争に際しても、原理原則に立ち返ることによってもつれた関係を適正に修復することが図られる。一方で、イスラム教、キリスト教、ヒンズー教の原理主義、経済原理主義や科学原理主義という言葉が、そのような考え方や指向をする人達に対する批判的用語として使われてもいる。同じ原理という言葉で表されているのに何処が違うのだろうか。

私は、原理原則を活用する「立場の違い」と考えている。すなわち、前者が、無私の立場でもつれた糸をほぐそうという立場であるのに対し、後者は、自らの解釈を押しつけることによってもつれた糸を引きちぎろうとする立場なのではないだろうか。養老孟司によると、「ある解以外は考え方がないかのように思えてしまうこと、それが原理主義の疑わしきである」という。

生命というものは本来、多様性と柔軟性を内包する性質のもので、原理主義的なものとは相容れないものである。複雑な人間社会の中で、原理原則はある程度潤滑油としての作用を有するものの、これに縛られてしまうとそこには逆に取り返すことにできない軋轢の傷が残されてしまうと思う。原理原則を無視してしまっただけに軋轢を生むだけになってしまうが、原理原則の外側にも重要な生き方の指針があることを自覚する必要がある。昔からの言葉―「良いあんばい」、「落としどころ」、「中庸の徳」、「懐の深さ」―そこに日本の先人の知恵がある。広い世界を見て価値観の多様性を肌で感じることに、柔軟な思考と感性で豊かに生きること、ルールを遵守しつつも程よくその枠外にあるものを認めること。熱研の活動を通じて、そんな視野の広さを学び取って欲しい。

九州大学医学部熱帯医学研究会 会長  
九州大学大学院医学研究院臨床医学部門内科学呼吸器内科分野 教授  
中西 洋一

## 総務あいさつ

熱研とは「旅」である。

我々熱研は、現行の活動のフィールドを熱帯から地球全域へと広げており、多種多様な「地球上の医療問題」すべてがテーマとなります。そのなかで自らが問題意識を特に強く感じ取ったものを、その年度の活動テーマとして設定し、問題の渦中すなわち現地へ赴き、現状を肌で感じる。この好奇心をくすぐる旅の醍醐味が、皆様の心も捉えて離さなかったことでしょう。

そして我々の活動は、ここから新たな局面を迎えます。現実味を以て得た経験を自らが持ち帰り、問題の現状、原因、未来、解決策等を見つめる活動が始まるのです。「経験」を「考察」に昇華した「思考の旅」は個人に終息しません。己では想起し得ない視点を提供する存在である「他者」との思考の交錯を通して、更なる興味に突き動かされる。

我々の活動の原動力とは、様々な未知のものに触れる、このような「好奇心」であるといえます。渡航による実体験や自己内では到達し得ない外的な視点を通して、未知の探求を「旅」をする部活として、我々は活動しております。

現在の部員構成は、医学研究院が2年1名、医学科が6年4名、5年7名、4年2名、3年8名、2年4名、1年6名、保健学科が4年4名、3年2名、1年2名、生命科学科が3年1名、2年1名、その他歯学部や薬学部にも4名の部員が在籍し、現在計46名に達しております。新たな入部希望もあり、「自己の終結が目的である」というアンチテーゼを孕む「国際保健」を扱いながら、我々の活動は留まるところを知りません。特筆すべきは、2学年以降の入部者が跡を絶たないことでしょう。現部員が展開する熱研の活動に魅了され、今まで知らなかった喜びに触れる機会を我々が提供できていることの証左として受け取っております。これにより、更に他者との交錯を活発なものにすることができると期待しております。

本年度は海外を研修先とするメディカルツーリズム班、リトアニア班、また国内を研修先とする仙台班、星野住民健診班と、時代の潮流に従いつつも、新しく大きな転換期を迎えている医療をテーマにした班が構成されました。どのような「旅」を経て、どのような思考を提示してくれるのか。これから充実した活動を精一杯に行ってくれることでしょう。今期の活動も自信を以て成果を御報告できますよう、実りある活動を致して参ります。

最後になりましたが、本年度も変わらぬ暖かい御指導、御支援の程をよろしくお願い申し上げます。

九州大学医学部熱帯医学研究会 総務

九州大学 医学部医学科 4年

中西 亨

# 星野住民健診班

## 活動目的

九州大学総合診療科が行っている八女市星野における住民健診に帯同させて頂き、実際の医療現場を体感する。同時に、臨床研究の社会の中における周りとの関係性を考察する。

## 活動場所

福岡県八女市星野

## 活動期間

7月—9月

## 班員

船津 康孝（医学部医学科 4 年）班長

寺岡 彩（医学部保健学科 3 年）

大保 文香（医学部保健学科 1 年）

## 抱負

今、私達はまだ技術としての医学を紙の上でしか学んでいないに等しく、実際の現場における医学のあり様は実感を持って感じられていない。熱帯医学研究会で例年お世話になっている九州大学総合診療科の住民健診に付いていかせて頂くことで、その一端でも感じ取りたい。加えて、臨床研究としての検診の一面も持っている住民検診を見学することで、地域と研究機関との関係性、問題点等に言及していきたい。

# 仙台班

## 活動目的

日本における未曾有の大災害、東日本大震災にみまわれた宮城県仙台市において、ボランティア活動を通して震災の後の人々の様子、現地の医療の実情を知るとともに、復興について考える。

## 活動場所

宮城県仙台市

## 活動期間

8月中旬

## 班員

末安巧人（医学部医学科 5 年） 班長

目時嵩也（医学部医学科 5 年）

## 抱負

2011 年 3 月 11 日、東北地方太平洋沖地震が東北地方を襲った。震災から 1 カ月を経過した今なお、連日、メディアにより被災者の慟哭が伝えられている。我々は被災地から遠く離れた福岡に居を構えている学生であるが、そのことを理由に今回我が国で発生した震災に対して、メディア等を介した間接的な関わりに留まることなく目を見開いて現状を捉え、被災地の今後について考えたい。

そして、活動の中で併せて微々たるながらも少しでも被災地に住む人々のために我々ができることを模索したい。

# メディカルツーリズム班

## 活動目的

メディカルツーリズム（医療観光）を題材として、医療が国際化することのメリット・デメリットについて考察する。

## 活動場所

タイ

## 活動期間

8月上旬

## 班員

藤本 晃嗣（医学部医学科3年）班長

## 抱負

国際化の波は医療にも押し寄せ、患者が国際化する時代となっている。途上国の富裕層や欧米諸国の患者は自国にはない医療の技術やアクセス、値段を求めて他国へと医療を受けるために旅することが増えている。日本において小児が移植手術を受けるために海外に行くこともメディカルツーリズムの一つの形であると言える。民間の調査によれば、全世界のメディカルツーリズムの市場規模は2006年の時点で600億米ドルとなっており[National Center for Policy Analysis, 2007]これはベトナムの国内総生産（GDP）とほぼ同額（609億米ドル、2006年）[統計局]である。この一方で経済産業省の調査によれば現状では、施設によっては年間数百件の受入実績があるものの日本の病院への「医療ツーリズム目的での来院はほとんど無」く、日本に滞在している外国人の来院や、旅行者の突発的な来院がほとんど[経済産業省, 平成21年度]であるという。このために日本はメディカルツーリズム後進国であると言われている。

このような現状に対して我々は日本における外国人受け入れに関する状況を確認するとともに、年間100万人を超える患者が訪れる世界有数のメディカルツーリズム先進国であり、2008年までは外国人患者として日本人を最も多く受け入れてきた[経済産業省, 平成21年度]タイ国におけるメディカルツーリズムに関する現状を調査し、メディカルツーリズムのもたらす利益や問題について考察する。また、しばしばメディカルツーリズムを批判する際に問題とされる倫理的な側面についても考察し、学生として医療とは何かを考える機会としたい。

# リトアニア班

## 活動目的

世界において主流である現行の「資本主義型」医療制度とは全く異なる、“平等”を至上命題とする「社会主義型」医療制度を通して、現在の医療が直面している課題に、構造面からアプローチする。

## 活動場所

Vilnius, Lithuania

## 活動期間

8月

## 班員

中西 亨（医学部医学科4年）班長

## 抱負

資本主義下では、社会的及び個人的に受診できる医療水準は経済を指標とする。一方、社会主義下では、経済に無関係に同水準の医療を無料で提供する。この特異な医療構造には、現在の医療制度の抱える課題を根本的に転換するパラダイムシフトを潜在しているのではないか。

しかし、Cubaを除く一般社会主義国の医療は発展したとは言い難い。理由の一つには財政の確保が困難だったことも挙げられるが、この難題に直面したリトアニアでは、代替医療 CAM が発展した。CAM は医療費抑制効果があり、現在も現地の医療では重要な柱となっている。医療費が国政を圧迫しその額が年々削減される日本で、CAM は導入可能なのだろうか。

リトアニアは現在、資本主義に転換している。資本主義下の医療制度に社会主義下の制度を利用するには、両主義を共に経験した国で学ぶことが必要だ。本国の国民医療費はロシアの3倍程度で一般医療水準は西欧並み、トップレベルの施設は米国並みと称されるが、男性の平均寿命が欧州で最悪（66years; WHO. 2010.）で、医師の海外流出に頭を抱えている東欧に共通する特徴を併せ持つ。

北の地、バルト三国の南端で、独自に発展した医療に触れ、大局的に医療「制度」を考察する。



## 第46期 予算

### <収入予定>

前年度繰越金	732,160
寄付	
九州大学医学部同窓会	350,000
九州大学学生後援会	30,000
賛助団体・個人からの寄付	800,000
部費	150,000
自己負担	661,000
総計	2,723,160

### <支出予定>

一般会計	
企画書作成費	10,000
報告書作成費	120,000
記念誌作成費	100,000
行事関連費	80,000
通信費	60,000
用具購入費・雑費	60,000
特別会計	
星野住民健診班	30,000
仙台班	500,000
リトアニア班	810,000
メディカルツーリズム班	180,000
総計	1,950,000

来年度繰越金 773,160

---

## 連絡先

〒814-0033 福岡県福岡市早良区有田4-26-15  
プラウドセイユ-203号

九州大学医学部熱帯医学研究会  
総務 中西亨（九州大学医学部4年）  
080-6442-5806  
espielekorilakkuma@gmail.com

## 事務局連絡先

〒812-8582 福岡県福岡市東区馬出3-1-1  
九州大学医学研究院 臨床医学部門 内科学呼吸器内科教室気付  
092-642-5378

---

<http://tropical.umin.ac.jp>